

南八下のよさを発信しよう!! マイタウンプロジェクト

和泉, 智人

(出版者 / Publisher)

法政大学図書館司書課程

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

The Journal of Media and Information Literacy / メディア情報リテラシー研究

(巻 / Volume)

4

(号 / Number)

2

(開始ページ / Start Page)

25

(終了ページ / End Page)

31

(発行年 / Year)

2023-09

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00030060>

法政大学図書館司書課程
メディア情報リテラシー研究 第4巻2号、025-031
特集：デジタル・シティズンシップ教育最前線

南八下のよさを発信しよう!! マイタウンプロジェクト

和泉智人
堺市立南八下小学校

1. はじめに

本校は堺市東区にある学校で、南海高野線「初芝」駅から北東に約 1.3kmのところに位置している。明治6年に創設され、2022年には創立150周年を迎えた歴史のある学校である。学校の北側へ少し足を進めるとすぐに昔ながらの田園風景が広がる堺でも珍しい町である。祖父母が近所に住み、親子3世代に渡って本校に在籍している児童も少なくない。地域の方々も教育を大切に思う思いが強く、多くの地域の方々がさまざまな教育活動に参加している。本校の児童はそんな地域の方々に見守られながら、毎日生活を送っている。今回はそんな児童らがさまざまな形で地域の方と交流することで、我が町のよさを体感し、それをさまざまな形で発信しようと主体的に取り組んだ活動の記録である。

2. GIGAスクール構想の実現に向けて

本校は堺市から総合的な学力向上研究校に指定され、「GIGAスクール構想の実現」に向けて取組を進めてきた。1人1台端末の時代を迎え、ICT端末をどう活用していくかというのは現場の大きな課題となった。学校の組織を再編成し、GIGA委員会を立ち上げた。「ICT端末を授業で効果的に活用することで、児童が主体的に学習に取り組み、結果的に児童の学力を向上させることができる。」という仮説を立て、研究に取り組んだ。児童らは、ICT端末の活用を積極的に進め、どんどん情報活用スキルを身に付けていった。ときに児童からICT端末の操作方法について本校教員が教えてもらう場面もあった。児童らは情報活用スキルを教員よりも比べものにならないスピードで習得していった。児童らがICT端末を多岐に渡って使用するにあたり、本校教員は児童らの情報モラル教育の必然性を強く感じていた。しかし、従前の情報モラル教育では、ICT端末の危険性を児童らに伝えるばかりで、児童らがICT端末を前向きに活用していくことから遠ざけていくのではないかと懸念していた。学校として、いったい情報モラル教育について、どう取り組んでいったらいいのか分からない状況だった。そんな折、デジタルシティズンシップ教育（以降DCと表記）という言葉に出会った。本校の課題解決に向けて取り組むべ

き教育活動だと感じた。しかし、本校の教育内容の中で、どの教科、どの単元、どの時間でDCに取り組むのか非常に難しい問題であった。現在の過大化した教育内容でそもそもDCに特化して時間を設定することは難しい。そこで、学校として文部科学省が示している「情報モラル指導モデルカリキュラム」を元に本校独自で指導計画を作成した。現在はこの指導計画を元に学校全体でDCを進めている。(図1)

今回は総合的な学習の時間の取組の中で、必要に応じて計画的にDCを取り入れたものである。一つのロールモデルとしてこれから実践される取組の一助となれば幸いである。

分類	目標	内容	教科	単元
①情報社会の倫理	a 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ	a2 相手への影響を考えて行動する	国語 特別活動	新聞を作ろう インターネット利用時のルールについて学ばせたい
	b 情報に関する自分や他者の権利を尊重する	b2 自分の情報や他人の情報を大切に	特別活動	26, 角がついたかいじゅう 友だちが作った
②法の理解と遵守	c 情報社会でのルール・マナーを遵守できる	C2 情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを知り、守る	国語 道徳	新聞を作ろう
③安全への知恵	d 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる	d2-1 危険に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	特別活動	動画サイトで気をつけること
		d2-2 不適切な情報に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	特別活動	動画サイトで気をつけること
	e 情報を正しく安全に利用することに努める	e2-1 情報に誤ったものもあることに気づく	算数	小数の計算 どちらが正しいか
		e2-2 個人の情報は、他人にもらさない	国語	調べて話そう、生活調査隊
f 安全や健康を害するような行動を抑制できる	f2-1 健康のために利用時間を決め守る	道徳	やめられない まあ、いいか。	
④情報セキュリティ	g 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る	g2-1 認証の重要性を理解し、正しく理解できる	総合	
⑤公共的なネットワーク社会の構築	i 情報社会の一員として、公共的な意識を持つ	i2-1 協力し合ってネットワークを使う	総合	

図1 令和4年度 情報モラル年間指導計画(中学年)

3. 南八下のよさを発信しよう!! マイタウンプロジェクト

(1) 指導に当たって

○総合的な学習の時間に関する取組

本単元「マイタウンプロジェクト」では、「南八下」の魅力を見つける活動を通して、地域の様々な場所や人々と出会う中で、人々の思いや願いに気づき、児童一人ひとりが地域に対して愛着をもって行動できるようになってほしいという思いをもって取り組んだ。

そこで、第一次『南八下の魅力って何だろう。』第二次『南八下のもっと深い魅力は何だろう。』第三次『南八下のためにできることは何だろう。』と設定し、学習を進めた。第三次では、校内清掃やコミュニティ新聞の記事作成、地域の掲示板や駅内のポスター、地域会館や授業参観での保護者や地域の方に向けた発表会を行った。

○デジタルシティズンシップ教育に関する取組

総合的な学習の時間における調べ学習の際には、情報の信憑性やフェイクニュース、著作権に



ついて触れてきた。その他、保健「けんこうな一日」と関連づけてメディアバランスについて、国語「引用の仕方」や自主学習と関連づけて著作権に対する考え方、道徳と関連づけてオンラインゲームにおけるコミュニケーションなどについて学習を進めてきた。

本単元では、最終的に自分たちが調べたり、見たり聞いたりして、わかったことや思ったことをいろいろな形で伝え合う活動を行った。その際に、DCとして情報モラルに関する内容で特に以下のことを目標にして授業を行った。

○インターネットを活用して町の魅力を発信することで、自分の行動が他者や世界の人に与える影響や責任について考え、地域社会の中でよりよい行動がとれるよう一人ひとりの意識を高めることができる。

○インターネットを用いて地域の情報を発信する際に、だれに対して何を発信し、相手にどのような影響を与えるのか話し合い、様々な視点から考えることができる。

(2) 単元計画

次	主な学習内容
1	<div data-bbox="300 1077 751 1140" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">南八下の魅力って何だろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・南八下のまちの魅力を他校に伝えるという課題意識をもって、タブレットでGoogleマップ、Yahoo!キッズなどを活用し、調べる。
2	<div data-bbox="300 1290 844 1352" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">南八下のもっと深い魅力は何だろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちとのさまざまな交流や地域の資料を通して、南八下の町に関わる人たちの思いや願いを感じ取る。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="416 1464 730 1704" style="text-align: center;">  <div data-bbox="475 1644 699 1704" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">町工場の見学</div> </div> <div data-bbox="868 1464 1182 1704" style="text-align: center;">  <div data-bbox="879 1644 1171 1704" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域の方との交流</div> </div> </div>
3	<div data-bbox="300 1749 914 1812" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">南八下のためにできることは何だろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・南八下の町に関わる人々の思いや願いに気づき、自分が町のためにできることを考え、それを様々な方法で発信する。 <p>① <u>責任のある発信について、責任のリングから考える。</u></p>

② 肖像権など発信する際に気を付けないといけないことは何かについて考える。

※情報を発信するという学習活動を通して、必要に応じて情報モラル等について学習した。(以下に学習内容を表記)

○グループで町の魅力についてまとめる。



○町の魅力をさまざまなかたちで発信！！



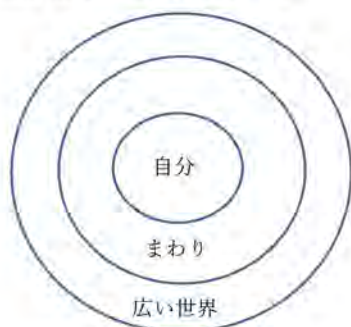
授業参観で



ホームページで

実践① 責任のある発信について、責任のリングから考える。

学習活動	児童の反応等
<div data-bbox="256 1160 812 1267" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 責任ある発信ってどういうこと？ (公開するとどうなるのかな？) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで発信するよさは？ ・自分がよいと思ったことは、何でも投稿（公開）してもよいと思うか。 ・STEAM ライブラリーを視聴する。 ・自分の思いを大切にしつつ、周りへの配慮を考えると、どういうことなのだろう？ ・責任をもった発信とは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人とつながれる。 ・多くの人に喜んでもらえる。 ・町の役に立つことができる。 ・思わない。 <div data-bbox="687 1733 1347 1995" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>★STEAM ライブラリーの内容について 学校のウェブサイトに掲載する学校新聞を作っている。「失敗から学んだこと」は役に立つからと発信したい編集者（姉）と、「失敗は恥ずかしいと載せたくない。」という妹。</p> </div>

<p>・自分ならどうする？</p> <p>・責任のリングについて知る。 ・行動する前に必ず一度立ち止まって、「責任」について考える必要があることを知る。</p> <p>① 「立ち止まる」 ② 「どうすればいいか考える」 ③ 「相談する」</p> <p>※3つのステップの確認</p> <p>・本時の振り返りをする。</p>	<p>載せる (理由) ・妹はかわいそうだけど、みんなの勇気にもなるし、役立つかもしれないから。</p> <p>載せない (理由) ・本人の嫌なことが世界中に広がる可能性があるから。 ・アップしたら、妹がかわいそうだから。</p> <p>責任のリング</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>自分…自分の安全や健康を守るなど自分自身に対する責任 まわり…知っている人や周りの人に対する責任 広い世界の人…知らないけれど、自分の行動が影響を与える可能性のある人</p> <p>・困ったときは3つを思い出してやってみる。 ・自分がよくても人が嫌な気持ちになったらのせないということを知った。 ・相手が嫌がっていることをせずに許可をもらって相手が嫌がらないようにすることをこれからも大切にしたい。 ・発信するときはきちんと相手の許可をとっていいか悪いかの判断をしてから発信する。 ・相手が嫌がるようなことは絶対にだめだと。思った。</p>
--	--

実践② <u>肖像権など発信する際に気を付けないといけないことは何かについて考える。</u>	
学習活動	児童の反応
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ホームページで町のみ力をよりよく発信するには？ </div>	
<p>○ホームページは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を ・だれに ・何のために <p>作るかを確認する。</p> <p>○ホームページと発表やポスター、新聞とのちがいは？</p> <p>○気を付けないといけないことを確認し、ホームページを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町を知らない人が見ても、わかりやすいか。 ・まちがっていないか。 ・新しい情報か。 ・許可は得たのか。 ・嫌なことはないか。 <p style="padding-left: 20px;">(引用・肖像権・著作権)</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南八下の魅力 ・南八下以外の人にも ・南八下の魅力を知ってもらい、来てもらったり、町の方にも町を守ってもらったりする。 ・より広がりやすい。(拡散) ・いつでも、どこでも見やすい。 ・調べるときに使う。 ・リンクでつながれる。 ・だれが作ったのか残る。 ・自分たちがつくったホームページには、実際とは違うかもしれない。もう一度、確かめてみる必要がある。 ・ホームページに載せようとしている写真について許可がとっていないので、このままでは載せることができないのがわかった。 ・別のホームページでも調べてみて、情報がまちがっていないか確認する必要がある。 ・南八下の町の人が見て、嫌な気持ちにならないかを確認しないといけないと思った。

4. 本実践に関する成果と課題

現状の教育課程の中で、小学校において「情報」という教科はない。学習内容について、きっちり実施するだけで精一杯の状況である。その中で、情報モラルについてどのように指導するかが重要となる。

単元全体の学習計画を見通し、そこで情報を扱うというところで児童に身に付けさせたい力を明確にし、必要に応じて指導していくことが大切となる。今回、子どもたちは自分たちの町のことについて調べ学習を行っていく中で、自分たちの町の取組、歴史、会社などさまざまなことに触れて、どんどん自分たちの町のことを好きになっていった。その思いが、自分たちの町のために何かできることはないかという思いにつながり、いろいろな形で自分たちの町のことについて発信しようということになった。子どもたちの主体性から学習活動が進んでいき、自分たちの町のことについて発信したいという思いにつながっていった。そこで、「責任のある発信」「肖像権」「引用」「著作権」などを学ぶ必然性が発生し、子どもたちはより主体的に「情報」について学ぶことができた。上記の振り返りにあるように子どもたちの中でホームページを作成するときの新たな視点が生まれ、ホームページの内容がどんどん変化していくことにつながった。小学校年代で「情報」について学ぶためには、単元全体の学習計画について指導者が見通した中で、情報活用能力を育成するために、「何を」「どのように」学ぶかということ意識しながら学習を進めていくことが重要である。そして、中学高校年代へとつなげていくことが小学校の役目となる。

図2、図3については、そのように学習計画を進めていった3年生が情報モラルについてのどのような意識を持っているかについて調査したものである。情報モラルに関するアンケート（令和4年度末頃実施）の肯定率が堺市平均と比べ、非常に高い結果となった。少しずつではあるが、コツコツとそのような情報モラルに関する指導を繰り返していくことが今、小学校年代で求められる情報モラル教育のありようではないかと考えている。子どもたちが情報に関わる際に、自然と「立ち止まる」「どうすればいいか考える」「相談する」の3つのステップで考えられるような姿が見られることを楽しみにしながら取組を続けていきたいと思う。

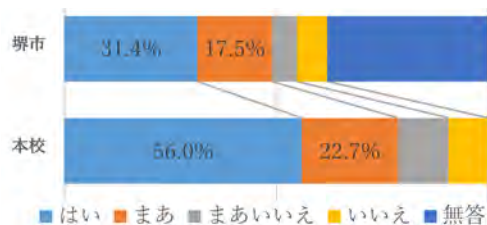


図2 他者の情報を使うときには、その許可をとっていますか。

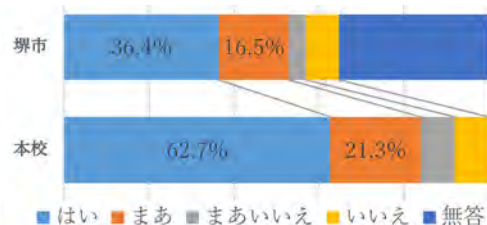


図3 情報を発信するときには、その情報が残ったり、広がったりする危険性があることを理解していますか。

参考文献

坂本旬・豊福晋平・今度珠美・林一真・平井聡一郎・芳賀高洋・阿部和広・我妻潤子「デジタル・シティズンシップ+」大月書店